

わかすぎ

vol. 150

2024. 6



公益財団法人
三重子どもわかもの育成財団
三重県立みえこどもの城指定管理者

〒515-0054
三重県松阪市立野町1291
中部台運動公園内
TEL0598-23-7735 FAX0598-23-7792
ホームページ <https://www.mie-cc.or.jp>



財団のシンボルマーク

地域社会の大きな枝葉が、子どもや若者や家族を温かく包み込むように支えるマークとなっています。中心の円の三色はそれぞれ黄色は「子ども」、橙色は「若者」、青色は「家族」を表しており、地域社会とともに育成支援をしていこうという当財団の思いを表しています。

令和5年度で45回目となった中学生のメッセージは、県内59校から8,191名の応募がありました。今回もまた、寄せられた発表の一つひとつにそれぞれの考えや思いが込められていました。その表現も一つずつ異なっており、一人でも多くの生徒に発表してほしいところですが、今回は代表として14名の中学生の発表となりました。

さらに司会、受付など大会全体の運営を主体となって取り組んでくれた桑員地区の中学生の活躍には、来場された皆さまから、たくさんの感謝の声をいただきました。また、同じく桑員地区の中学生が行ったよさこい演舞、吹奏楽演奏の実践発表には大きな拍手が寄せられました。

令和6年度は、紀南地区(御浜町)で開催予定です。



運営協力中学生集合！

中学生のメッセージ2023 受賞者一覧



祖父はつまらない人？

たかだ すずな
高田 鈴奈 さん いなべ市立藤原中学校 2年

作文概要

耳が遠くなってきた祖父と会話をしていても楽しくないと感じ、自然に距離をとるようになっていた私は、ある日、祖父と母との会話がとても弾んでいることに驚きました。そして、そこには「関わり方」が関係しているのだと気づきました。それからは、祖父と積極的に関わるようになったことで、私自身もより深く物事を考えられるようになった気がします。そんな経験をとおして、私は、若者と高齢者の互いの理解、コミュニケーションが深まる社会になってほしいと考えています。

緊張しましたが、自分の考えをたくさんの大人に伝えられてよかったです。当日は、うまくいくことだけを考えて動作、気持ちを言葉にのせるように発表しました。



最優秀賞の高田鈴奈さんの作文は、財団ホームページ (<http://www.mie-cc.or.jp/ikuseihp>) に掲載しています。



知ることの大切さ

すえひろ いちご
末廣 一護 さん 津市立南が丘中学校 2年

特別

ばば だいと
馬場 大翔 さん 多気町立勢和中学校 3年

つながり ~ヘッドネーション~

やまもと
山本 なごみ さん 木曽岬町立木曽岬中学校 3年



受賞おめでとう！



もっと地球の未来を考えよう

いづめ かなで
井爪 奏 さん 津市立美杉中学校 3年

性別による格差のない社会に

おざわ さつき
小澤 咲月 さん 伊賀市立緑ヶ丘中学校 3年

いじめについて

かとう すず
加藤 涼 さん 鈴鹿市立大木中学校 1年

「おはよう」がかえってくる

ささき りん
佐々木 凜 さん 伊賀市立霊峰中学校 3年

それでも私は挑戦し続けたい

たかす さなみ
高須 咲南 さん 紀宝町立矢淵中学校 3年

男女差別について

つじ あすか
辻 明日薫 さん 四日市市立西朝明中学校 3年

私たちにしかできないこと

なかむら りの
中村 梨乃 さん 朝日町立朝日中学校 3年

美しい私たちの日本語

ふじい はるな
藤井 春奈 さん 尾鷲市立輪内中学校 3年

わたしの考える防災

むらやま あやか
村山 絢桜 さん 暁中学校 3年

失われていく子どもたちの大切な遊び場

やまぞえ あいな
山添 愛奈 さん 暁中学校 3年

運営協力中学校

開催地区の中学生による運営

司会・受付・案内
表彰アシスタント

いなべ市立員弁中学校
いなべ市立藤原中学校

実践発表

いなべ市立北勢中学校(よさこい演舞)
いなべ市立大安中学校(吹奏楽演奏)

デザイン画協力

桑名市立光風中学校・桑名市立陽和中学校
桑名市立正和中学校・桑名市立陵成中学校
桑名市立多度中学校・桑名市立長島中学校

デザイン画
最優秀賞

桑名市立多度中学校 2年
石川 美咲さん・坂本 綾音さん
園田 志歩さん・渡辺 菜摘さん



開催地区の中学生による実践発表



桑名地区の中学生によるデザイン画展



大人からの応援メッセージ展



審査委員 (※敬称略、順不同)

審査委員長 国立大学法人三重大学 教育学部長 伊藤 信成

審査委員	三重テレビ放送株式会社 常務取締役	間野 丈夫	三重県PTA連合会 前副会長	岸田 諭祀
	いなべ市教育委員会 教育長	小川 専哉	三重県私学協会(皇學館中学校 教頭)	山形 達哉
	東員町教育委員会 教育長	日置 幸嗣	三重県教職員組合 中央執行副委員長	本田 実
	三重県小中学校長会 副会長	上田 章善	三重県子ども・福祉部 次長	西崎 水泉
	(鈴鹿市立平田野中学校 校長)		公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長	水元 正

協力いただいた企業・団体 (※五十音順、敬称略)

株式会社アーステックTAGAWA、伊賀ふるさと農業協同組合、イセット株式会社、伊勢農業協同組合、農事組合法人うりぼう、税理士法人Ace
 有限会社岡井博進堂、岡三証券株式会社津支店、笠間の里せんだんネットワーク、紙小津産業株式会社、紀北信用金庫、共栄堂印刷株式会社
 株式会社ぎゅーとら、桑名三重信用金庫、桑名三重信用金庫阿下喜支店、グッディ、建築設計事務所アトリエ21、コスモスバリーズ松阪店
 株式会社三五いなべ工場、株式会社三十三銀行、有限会社三友工業、有限会社嶋屋、有限会社清水組、JAバンク三重、ジールケア株式会社
 セイワシステムサービス株式会社、瀬古食品有限会社、株式会社せにや、多気郡農業協同組合、竹輝銅庵JSJT.CO.,LTD.、株式会社司
 東邦液化ガス株式会社、有限会社トータルインテリアタグチ、豊田合成株式会社いなべ工場、野村證券株式会社津支店、ニッタ・デュポン株式会社
 株式会社農成會、パイロットインキ株式会社、有限会社ヒダカツ工業所、株式会社百五銀行、有限会社プラスサポート、保険企画サポート24
 株式会社松阪電子計算センター、有限会社松葉ビッグファーム、有限会社松本水道、三重北農業協同組合、公益社団法人三重県医師会
 公益社団法人三重県歯科医師会、一般社団法人三重県薬剤師会、三重交通株式会社、三重コニックス株式会社、南建設有限会社
 有限会社山室石油、理想科学工業株式会社、株式会社リンクフジカワ

青少年育成市町民会議

活動紹介

県内の各青少年育成市町民会議では、青少年の健全育成を目的とし、様々な活動を行っています。今回は4つの市町をご紹介します。

三沓支部 四日市市青少年育成市民会議

四日市市青少年育成市民会議は、青少年の健全な育成を図ることを目的に、昭和53年4月に設立され、今年度で46年目を迎えます。

主な事業として、「秋のこどもまんなか月間」の取組に呼応して、「大人が変われば子どもも変わる」をスローガンに、毎年10月下旬に市内4会場で地元中学生と一緒に「街頭啓発活動」を行っています。

また、11月には、四日市市及び四日市市PTA連絡協議会との共催で、「家庭の日啓発事業」として、中学生のメッセージ三重県大会の入賞者による発表と子育てに関する講演会を開催するとともに、家族の絆や家庭の大切さを見直す機会となるよう毎月第3日曜日は「家庭の日」の周知に努めています。

そのほか、「子どもも大人も参加できる地域活動」をテーマに、地域団体やPTA、子ども会などが実施する青少年育成活動事業を支援しています。

今後も、関係団体と連携し、青少年の健全育成活動を推進していきたいと思ひます。



街頭啓発活動



家庭の日講演会



親子ふれあい教室

松阪支部 多気町青少年育成町民会議

多気町青少年育成町民会議は、区長や保護司会、公民館、保育園、小中学校、PTA、民生児童委員、防犯連絡員、交通安全指導員、シニアクラブ等の代表で構成され、地域活動部会、教育部会、広報部会の3部会で活動しています。

地域活動部会では、丹生大師少年剣道大会、新春凧揚げ大会などの行事を行い、長期休業前には、町内二つのスーパーで非行防止啓発活動を行っています。

教育部会では、親子ふれあい教室、組立飛行機選手権大会、夏休み体験活動(令和5年度は、台風の影響により中止)を開催し、昨年度は、親子が楽しく活動している姿がたくさん見られました。また、少年の主張作文の募集も行っています。

広報部会では、広報誌「はぐくむ」を年3回発行し、少年の主張作文で入賞した作品や町民会議が行った行事を紹介しています。

さらに、本部役員が中心となって子どものよいところや可能性を引き出し、子どもの生きる力を育む運動に表彰を行っています。本年度は、新たに「たきスターウォッチング」を開催し、子どもや保護者が故郷の星空に親しめるようにしていきます。今後も、関係団体と連携し、青少年の健全育成活動を推進していきたいと思ひます。



新春凧揚げ大会



南勢志摩支部 志摩市青少年育成市民会議

志摩市青少年育成市民会議は、平成16年10月市合併後、平成17年6月に設立し、各旧町民会議での活動を基盤として引継いだ5支部で構成されています。

主な事業の一つであるジュニアリーダー研修会では、夏休みに市内の中学校から代表が集い、英虞湾でのシーカヤック体験やSDGsに関する環境講座、真珠養殖場見学など、地域の方々の協力のもとで特色ある研修プログラムを企画し、将来の地域のリーダー育成を図っています。他に、多世代で参加するスポーツまつり、わらじ祭り会場での魚のつかみ取り、御座白浜海岸での地引網体験、大型バスや電車を貸切り市外へ出かける親子交流遠足、いちご狩りなどを企画しています。また、あいさつ運動(オアシス運動)や夏休みのラジオ体操などにも取り組んでいます。

今後も関係諸団体との連携を広げ、こどもたちにとって本会議の事業を通じた様々な体験や出会いの機会が創出できるように、青少年育成のための取組を推進していきます。



英虞湾でのシーカヤック体験



御座白浜海岸での地引網体験



青少年非行防止パトロール



夏休み子どもバスツアー

紀南支部 紀宝町青少年育成町民会議

紀宝町青少年育成町民会議は、九つの地区青少年育成部で構成され、関係団体と連携し青少年の健全育成に取り組んでいます。

近年、少子高齢化や核家族化等の進展、スマートフォンの普及などによる急速な情報化やサービスの多様化が地域社会に浸透する一方で、子どもたちが、人とのつながりや年齢を越えた交流をする機会が少なくなっていると思われまます。

子どもたちが、あらゆる世代の人々との絆を深め、家族との絆の大切さを感じ取る体験や社会貢献活動等を通じ、豊かな心を育むことは重要であることから、町民会議では、あいさつ運動、夏休み子どもバスツアー、青少年育成交流会、門松づくり、青少年非行防止パトロール等様々な活動に取り組んでいます。

また、地区青少年育成部においても、ラジオ体操、親子ハイキング大会、凧揚げ大会、清掃活動、地域の祭り等を住民と連携して実施しています。

今後も、時代や環境の変化に対応しながら、青少年の健やかな成長を見守る活動を続けてまいりたいと考えています。

令和5年度 公益財団法人三重子どもわかもの育成財団表彰

子ども若者の育成支援にご尽力いただいた方々を表彰しています。本年度は、個人の部(青少年指導者)7名の方の表彰を行いました。受賞者の皆さまには、今後益々のご活躍を期待します。おめでとうございます。

受賞者紹介 ※敬称略

個人の部(青少年指導者)



表彰式の記念撮影

明和町 石田 豊喜

明和町内の様々な団体のリーダーとして長年にわたり活躍されている。特に明和町青少年育成町民の会では、大型ショッピングモールのパトロール等に積極的に参加されている。また、斎宮校区青少年育成会の副会長として青少年の健全育成・非行防止活動等に現在も幅広く活動されている。

伊勢市 川邊 一彦

伊勢市桜浜中学校区青少年健全育成協議会の広報委員として、地域の歴史や伝統文化等の継承に貢献された。さらに令和5年1月、伊勢市長にICTを活用した北浜まちづくり会議の取組を報告するなど、地域にとって多大な貢献をされている。

伊勢市 山口 卓男

平成9年の五十鈴中学校区青少年健全育成協議会の立ち上げから活動に参加された。以来、令和5年3月まで25年の長きにわたり会長を務め、五十鈴中学校区の青少年健全育成活動の先頭に立って尽力され、青少年の啓発活動など多岐にわたる活動の中で、青少年の健全育成に大きく貢献されている。

鳥羽市 宮濱 克行

鳥羽市PTA連合会の代表として平成4年6月から鳥羽市青少年育成市民会議運営部員として携わり、事務長、副会長を経て、平成13年7月から会長として青少年育成活動に取り組まれた。また、市人権教育研究協議会理事など積極的に取り組み、他の会員の模範となっている。

名張市 山口 幸祈

中学1年でジュニアリーダーとして名張Kidsサポータークラブに加入し、子どもたちにゲームやキャンプの指導等を積極的に行われた。令和4年に会長に就任され、名張市青少年育成市民会議の理事としても会の運営に参加し、青少年健全育成に伴う体験活動等にも積極的に取り組まれている。

尾鷲市 小倉 章生

平成21年より尾鷲市少年指導委員として活動を開始し、青少年育成、非行防止に尽力され、平成28年度より尾鷲市青少年育成市民会議の代議員に選出された。令和元年度からは副会長として、少年の主張紀北地区大会、地域間交流行事、みえこどもの城事業との連携行事などの活動にも携わられている。

紀北町 濱口 宏

紀北町青少年育成協議会の前身である海山町青少年育成町民会議に平成9年から所属し、昨年度まで通算5年間会長を務められたほか、副会長などの主要役員も歴任された。現在も理事として協議会の活動に積極的に参加するなど、長期にわたり青少年の健全育成に多大な貢献をされている。

子どもが主役 キッズスタッフ3年目 活動の場がひろがりました!!

(こどもの主体性を育む事業)

小学生がスタッフとなって、みえこどもの城のイベントを企画運営する「キッズスタッフ」。3年目を迎え、第5期13人、第6期15人のキッズスタッフが活躍しました。

1 イベント実施

一人ひとりがみえこどもの城で「やってみたい!」を持ち寄って、企画会議へプレゼンテーション、意見交換、調整 → 企画決定 → 役割分担・準備 → イベント実施!



やってみたい!を見つけるワークショップ



企画会議でブラッシュアップ! 役割分担と準備



イベント本番!



2 コドモ1000ボイス×キッズスタッフコラボアンケート (みえこどもの城事業への参加)

みえこどもの城が実施している調査研究『コドモ1000ボイス』とコラボ。

こどもの城全域を使って、子どもたちの「大人に言いたいこと」を集めました。その後、子育てパパサークル パパスマイル四日市の館さんをファシリテーターに、自分たちなりに意見を整理し、話し合いました。

「あー、それな」「あるある～」に始まり、「みんな‘してほしい’ばかり、思いやりがない」などいろいろな気づきが。「普段は言えないときもあるけど、集めると大人に言いたいことってたくさんあるんだなあ」「見てると自分も言いたいことある!」など、今回の活動は自分自身の気持ちや、言いたいことを伝える大切さを考える機会にもなったようです。



11月の子ども虐待防止啓発イベント「オレンジまつり」の中でも集めた声の発表を行いました。

※令和5年度 みえこどもの城調査研究事業『コドモ1000ボイス』

今回のキッズスタッフとのコラボ企画をはじめ、県内各地の子どもたちから集めた1000以上の“ボイス”は分析のうえ今年度発表する予定です。



YouTube みえこどもの城 公式チャンネルで配信中

3 みえこどもの城 PR 動画作成

みえこどもの城の中で「キッズスタッフがおすすめる場所」という館内紹介動画を作成しました。

シナリオも似顔絵もすべてキッズスタッフの手作りで、動画はこどもの城エントランスで放送中!



【担当スタッフが見たキッズスタッフ】

- 人前で話すことを嫌がらず、さらにみんなを楽しませるなど自信がついてきたのがわかります。
- 新メンバーや初めてのイベント参加者に積極的に話しかけられるようになりました。
- 「何をすればよいか」などをキッズスタッフ担当者に聞くことがなくなり、やりたいことや役割を自分で考えて活動できるようになりました。

県内の中学生、高校生、大学生が大活躍!!

(わかもの社会参画応援事業)

第2回 高校生☆プラネタリウムコンテスト

令和6年2月12日(月・祝)

県内の高校生が、個人やグループで、課題に沿ったプラネタリウム作品を制作し、みえこどもの城のプラネタリウムで発表しました。本選大会には8組30名が参加。発表した作品は、さまざまな分野の専門家が審査し、最優秀賞および特別賞を決定しました。

昨年度に引き続き参加された高校生や初参加のグループ、作品もドラマ仕立てのものや研究発表など、それぞれのグループの個性を活かした作品が出そろいました。

審査員からは、「それぞれレベルが高く甲乙つけがなかった」「視野を広く持って地球環境について発表したことが良かった」「心に響く発表ばかりで、演出にも工夫があった」など、非常に高い評価をいただきました。

- ◆参加校：桑名高等学校、上野高等学校、松阪高等学校
高田高等学校、三重高等学校
- ◆審査員：国立大学法人 三重大学 教育学部長 伊藤 信成
(※敬称略・順不同)
天文研究者 あさだ考房代表 浅田 英夫
前三重県総合博物館長 大野 照文
三重県教育委員会 教育長 福永 和伸
児童文学作家 村上 しいこ
- ◆後援：三重県、三重県教育委員会
- ◆協力：三重県内スーパーサイエンスハイスクール指定校

受賞名	高校名	作品タイトル
地球科学・環境部門 最優秀賞	桑名高等学校 MIRAI 研究所	どうして星が見えないの？
宇宙・星空(天文)部門 最優秀賞	桑名高等学校 MIRAI 研究所	Interview with Orion
特別賞	高田高等学校 天文部 1年生チーム	時をかけて
	松阪高等学校	私の視線を奪う星



各部門で最優秀賞を獲得した作品は、令和6年の夏休みに、みえこどもの城SWS西日本キッズシアターで特別投影する予定です。

サイエンスひろば

令和6年3月16日(土)、17日(日)、20日(水・祝)

県内の中学校、高等学校、大学の学生が、日頃の学習や研究の成果を生かし、企業等と一緒に、子どもたちに向けた楽しく不思議な科学実験や工作の体験などを行いました。

学生からは「難しいことがあり先生のサポートも受けたが、無事にやり切れてよかった」「人に教えることを楽しめた」などの声があり、気づきの多いイベントになったようです。

◆参加人数：4,966名 ◆協力企業・団体：8企業・団体 ◆協力企業・団体スタッフ：85名



土の中の生き物を見てみよう!



なぜ、せっけんで汚れが落ちるのか考えてみよう!



ロボット操縦体験

◆協力：四日市工業高等学校ものづくり創造専攻科、松阪工業高等学校、伊勢工業高等学校、三重中学校・三重高等学校 皇學館大学教育学部、WDB株式会社エウレカ社、株式会社サンエル、三重県総合博物館

第10回 キッズ☆おしごと広場

令和5年6月24日(土)、25日(日)、7月1日(土)、2日(日)

10回目となった「キッズ☆おしごと広場」は、29種のおしごと体験を4日間に分けて開催しました。

子どもたちからは、「自分のゆめの仕事について知れてよかった」「おしごとの大変さにびっくりした」「お母さんの大変さがわかった」「将来の夢はあったけど、他にもやりたいことができた」などの声があり、楽しい体験の中で、さまざまな学びがあったことが感じられる4日間でした。



- ◆参加人数：1,776名
- ◆参加企業・団体：28企業・団体
- ◆企業・団体スタッフ：135名
- ◆学生ボランティア：59名



参加企業・団体・学校

株式会社あかり屋、旭電気株式会社、旭美容専門学校、イセツ株式会社、有限会社上野屋宇野重工株式会社、株式会社エスト、岡三証券株式会社、有限会社ケアステーションたきび皇學館大学、株式会社三十三銀行、株式会社JPF松阪事業所、下津醤油株式会社、有限会社深緑茶房鈴鹿大学短期大学部、高田短期大学、社会福祉法人長寿会なでしこ苑、津市立三重短期大学万協製薬株式会社、株式会社ボンタイム、松阪飯南森林組合&三重県松阪農林事務所、松阪警察署松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社、松阪市民病院、松阪地区広域消防組合 松阪中消防署公益社団法人三重県歯科医師会、特定非営利活動法人三重県歯科衛生士会松阪支部 社会福祉法人三重県社会福祉協議会、一般社団法人三重県助産師会 一般社団法人三重県理学療法士会、三重コニックス株式会社、株式会社ミツイバウ・マテリアル

◆学生の声

- 子どもたちが一生懸命作業に取り組む姿を見て感動した
- 企業さんとご一緒に、自分が知らない業界について知ることができた
- 大学に通っていても、子どもと接する機会は少ないため、子どもと関わり、素直な声や笑顔をみることもできたのはとても有意義だった

◆企業・団体の声

- 子どもたちの喜ぶ顔が見られ、社員教育にもなるので、当社として有意義なイベントとして考えている
- 学生ボランティアの方が子どもと一番近い距離で接して場の空気を作ってくれた
- 子どもたちが仕事を体験して成長につながっていく姿がとても微笑ましく素晴らしい光景だった
- 自分たちの仕事に興味を持ってくれ、「将来なりたい」といった声も聞けてうれしかった



出張おしごと広場



みえこどもの城で大人気のイベント「キッズ☆おしごと広場」を、参加企業のご理解ご協力のもと、地域の児童館で実施しました。ふだん、みえこどもの城に来館することが難しい子どもが、地元にいながらこどもの城のイベントを体験できました。子どもたちにはそれぞれの仕事内容だけでなく、その仕事の背景や、社会の中での意味にまでふれ、興味を持てる機会となったようです。引き続き、より有効な形で実施できるようブラッシュアップしながら取り組みます。

児童館	協力企業	おしごと内容
四日市塩浜児童館	株式会社エスト	名刺づくり
津市すばる児童館	株式会社ボンタイム	お菓子づくり
四日市こどもの家	旭電気株式会社	炭電池でブランコを動かそう

さまざまな取り組みを行いました!!

伊勢茶を楽しん^{ちゃ}茶お!

令和5年9月10日(日)

三重県の地域ブランドとして商標登録されている「伊勢茶」を子どもたちにも知ってもらおうと、学んで、飲んで、食べて、楽しめる体験イベントを開催しました。

伊勢茶の魅力がよくわかる飲み比べやお茶の手もみ体験、おいしいお茶の淹れ方講座やお茶を混ぜ込んだどら焼き作りもあり、高田短期大学の皆さん製作のお茶にまつわる紙芝居、飯南高校美術部による伊勢茶ラテアート披露など、お茶づくしの一日を、たくさん子どもたちとご家族が楽しんでいました。

- 協力：飯南高校美術部、高田短期大学、NPO法人日本cha茶ちゃ
落合刃物工業株式会社、三重県茶業会議所、みえこどもの城ボランティアはぐくみ隊
- 後援：伊勢茶推進協議会



三重県子ども
虐待防止啓発事業

オレンジリボンキャンペーン2023

～ とどけ! ぼくのこえ、わたしのこえ ～

オレンジまつり 令和5年11月5日(日)

11回目となったオレンジリボンキャンペーンは、「オレンジまつり」を復活し、月間キャンペーンのキックオフとなる「メッセージ伝達式」ののち、地域企業・団体の提供によるステージイベント、体験ブースなどを家族で楽しみました。

- 参加人数：640名 ●協力企業・団体：10企業・団体 ●協力企業・団体スタッフ：82名

協力企業・団体

いなべ市青少年育成市民会議 / 放課後子ども教室ほくせい、お菓子工房M、日本土木工業株式会社、みえこどもの城ボランティアはぐくみ隊
FITNESS CLUB AMIY、特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター、三重県警察本部、公益社団法人三重県歯科医師会
一般社団法人三重県助産師会子育て健康支援推進委員会、みえこどもの城キッズスタッフ

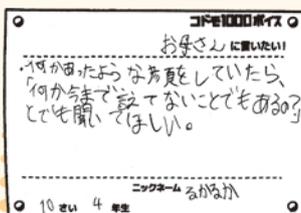
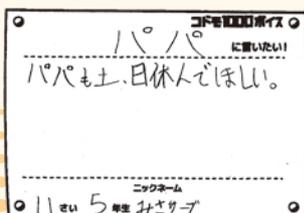


コドモ1000ボイス 令和5年11月1日(水)～30日(木)

館内には、今回も児童虐待に関する情報や子どもを守る組織や団体の紹介など啓発パネル等を設置し、児童虐待防止に向けた啓発を行いました。

「コドモ1000ボイス」「オトナ応援メッセージ」の展示

子どもには「オトナに言いたいこと、お願いしたいこと」を、大人には、子どもへの応援メッセージを募集し、館内に掲示しました。



期間中に
集まったメッセージ

子ども：1,007枚
大人：464枚
合計：1,471枚

ボランティアさん大活躍!!

楽しく学べる食育講座『はぐくみタイ夢』

子どもたちの元気を「食」から応援する地域の栄養と保育の専門家のボランティアグループとして、2014年にみえこどもの城で発足した「はぐくみ隊」が、毎月第3日曜に親子で楽しく学べる食育講座『はぐくみタイ夢』を開催しています。今年で10年目を迎えたこの講座は毎回満席の人気イベントで、“食育”を通して子どもたちの成長を応援しています。

身近な食材で簡単に作れる親子クッキング。「はぐくみ隊」の活動は10年という節目を迎え、そのまとめのレシピ集を2冊発刊することもできました。

参加者は小さなお子さんとお父さんのこともあります。あれこれと試行錯誤して、やっと試食。「美味しいね!」「そうだね!」と会話ははずみます。また、「家でも作ってみたい!」「おばあちゃんに届けたい!」などの言葉も聞かれます。これこそ食育!と私達スタッフは大いに励まされています。時間と場所の関係で作れるものには制限もありますが、食材に触れ、自分で作ることの喜びは美味しさを増幅させ、食べる意欲を高めるようです。親子の格好の触れ合いの場でもあります。皆さん、是非体験にお出かけ下さい!お待ちしております。

〈はぐくみ隊代表 馬場 啓子〉



☆嬉しいニュース!

活動開始当初、毎回のように弟と参加してくれていた当時小学生の男の子。学年が進んで参加しなくなっていた彼は、今春、高校生になり…!先日、「はぐくみ隊にボランティアで参加したい」と申し出てくれました。もちろん、「OK」に決まっています。

長く続けているとこんな嬉しいこともあるんですね。彼にはスタッフの一員として大いに活躍してほしいと思っています。

おもちゃ診療所

おもちゃ診療所は、大切な「おもちゃ」を修理してくれるところです。みえこどもの城では、毎月第2土曜に開院しており、2026年で20年になります。

毎月、ボランティアグループ「松阪おもちゃの病院」の約15名のドクターが活躍!受付時間内は、ひっきりなしにおもちゃが持ち込まれ、大忙し。それでも、「子どもが喜んでくれるならそれでいいんさ」「おもちゃを大事にしてくれるその心が大事だよ」とドクターたちは嬉しそうです。



こどもからのお手紙

おもちゃのせんせい、どろーと
らじおんをなおしてくれて、
ありがとう。
だいじにつがいます。

ジムニーをなおしてくれた
ジムニーをなおしてくれて
がとうございませう。おははは
しうでした。 弟 2026年11月29日
なげあってとてもよかったです。



治療を終えたおもちゃを後日取りにきてくれた子どもから「今日は直接お礼が言えないからおもちゃの病院さんにお手紙を書きました。」などとかわいとお手紙をお預かりすることもあります。

SWS 西日本キッズシアター

2022年4月にリニューアルしたドームシアター プラネタリウムでは、スタッフの解説で満天の星をご覧いただけるプラネタリウムのほか、ドームいっぱい広がる迫力満点の全天周映像をお楽しみいただいています。

特に、プラネタリウムでは、小学4年生、6年生の理科学習の助けとなるように、学習指導要領に則った内容で天文にかかわる学習番組を用意しています。

小学4年生以上の団体様向けの投影になりますが、内容も「星の色・明るさ」「月の動き」などとてもわかりやすいと子どもたちに好評で、理科の授業に役立てていただいています。



令和6年8/3(土)・17(土) 特別投影

小学4年生のための 星空★スクール in みえこどもの城プラネタリウム

団体利用でしか見られない学習番組を一般向けに投影します。
夏休みの自由研究にも役立つ内容です。(詳しくはホームページをご確認ください)



イベントホール

夏の体験型展示「なんかようかい!?妖怪屋敷」

令和5年6月24日(土)～9月18日(月・祝)

「この先には何がいるんだろう…」

ちょっと怖くて、ちょっとかわいい!?妖怪たちが住んでいる妖怪屋敷には、『縄を引くと現れるろくろ首』や『座敷童とのゲーム対決』など、今までに無い仕掛けがいっぱい!

たくさん子どもたちが友だちや家族と挑戦してくれました。

イベントホール
過去最多入場者数達成!

入場者数:
延べ9,745人



移動児童館

みえこどもの城は県内唯一の大型児童館として、地域のさまざまな施設に遊びを届け、一緒に遊びを作るため、令和5年度も「移動児童館」を行いました。サテライトいなべ・サテライトくまのと合わせ、放課後児童クラブや放課後デイサービス、子ども会や児童館など98カ所に伺いました。

また、カプラもよく利用されており、イベントなどの短期貸出と、一か月単位の長期貸出をしています。

令和5年度は新しいあそびとして「しぼり染め」を取り入れました。

これは児童館スタッフが元々持っている技術や個性を生かすことでより多様な体験ができることを目指すという試みの一つです。「しぼり染め」にはあそびの偶然性と可能性があってとても楽しいとの声をいただきました。

また、こどもの城のボランティアさんにも地域へ出かけてもらう取組は、提供する遊びの間口を広げるとともに、より専門的な技術に基づく遊びを届けることで、子どもたちの素直な驚きや好奇心をその後の成長につなげていければと考えています。

これからも、県内の子どもたちの健全育成につながるあそびを届けていきたいと思っています。





令和5年度

公益財団法人 三重子どもわかもの育成財団 決算報告書

貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位：千円)

科目	当年度
I 資産の部	
1. 流動資産	46,122
2. 固定資産	383,398
(1) 基本財産	290,260
(2) 特定資産	92,136
(3) その他固定資産	1,002
資産合計	429,520
II 負債の部	
1. 流動負債	18,633
2. 固定負債	16,706
負債合計	35,339
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
指定正味財産合計	340,418
(うち基本財産への充当額)	290,260
(うち特定資産への充当額)	50,158
2. 一般正味財産	53,763
(うち特定資産への充当額)	25,273
正味財産合計	394,181
負債及び正味財産合計	429,520

正味財産増減計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：千円)

科目	金額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	1,350
特定資産運用益	110
受託金	143,872
事業収益	21,880
その他収益	10,208
経常収益計	177,420
(2) 経常費用	
事業費	159,137
児童健全育成事業費	129,273
児童健全育成拠点事業費	12,453
青少年育成事業費	12,523
三重県委託事業費	990
収益事業費	3,898
法人管理費	13,653
経常費用計	172,790
評価損益等調整前当期経常増減額	4,630
損益評価等計	0
当期経常増減額	4,630
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	4,630
一般正味財産期首残高	49,133
一般正味財産期末残高	53,763
II 指定正味財産増減の部	
一般正味財産への振替額	▲9,257
当期指定正味財産増減額	▲9,257
指定正味財産期首残高	349,675
指定正味財産期末残高	340,418
III 正味財産期末残高	394,181

みえこどもの城来館者満足度「96%」

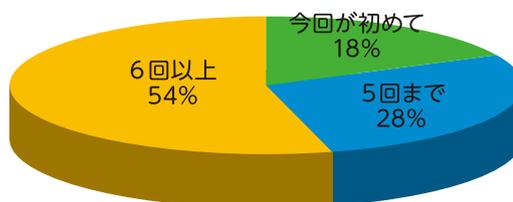
来館いただいた方に、アンケートをお願いしています。

調査項目は、子どもの年齢、お住まい、来館についての情報源、満足度などです。

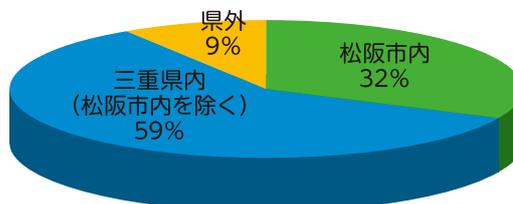
満足度を問う「こどもの城は楽しかったですか？」の質問で、令和5年度は96%の来館者が『楽しかった』との回答をいただきました。

また、自由意見では感想など嬉しいお声をたくさんいただいているほか、希望するイベント、遊びの企画などにも数多くの要望をいただいております。1つずつでも、実現につなげられるようスタッフ会議を重ねています。

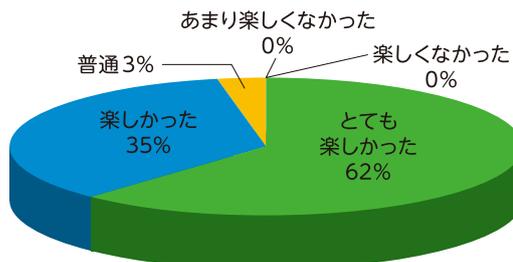
来館は何回目ですか？



どちらから来られましたか？



楽しかったですか？



館内アンケートを受けて

ドームシアター全天周映像「ハナビリウム」を継続上映

「ハナビリウム」良かったです。花火がきれいだったのはもちろん、花火について勉強でき、また、平和について考えさせられました。子どもも感動して泣いていました。また見たいと言っています。毎年上映してほしいです。

「ハナビリウム」ととても素敵でした。娘と一緒に花火に行くのは難しいので一緒に見ることができて幸せでした。これからも見たいので続けてほしいです!!

このようなご意見をたくさんいただきました。ドームシアターの全天周映像は1年以内の上映が通常ですが、来館者の声が多かったため、今年も「ハナビリウム」を上映することにしました。

当財団は20周年を迎えました

令和6年度は、三重子どもわかもの育成財団設立20周年にあたります。これを記念して、9月に関係の皆様と記念事業を実施します。

「コドモ1000ボイス」の発表をはじめ、子どもやその育ちに対する認識を広く共有する機会として開催する予定です。